

「突哨山の地域運動史」について

2021年5月24日

これまで2017年の「突哨山運営協議会」の総会で活動記録誌の作成が提案されてから、原稿がなかなか集まらずに経過してきましたが、やっと9割ほどの原稿が集まり、今年中には出版できるところまでできました。

現在集まった原稿は約39000字でさらに年表や写真などが入ります。目次も約60項目程になります。構成は突哨山の位置付けから始まり、「突哨山と身近な自然を考える会」の1991年の結成からの約30年間の活動、2008年に市民、行政、指定管理者の3者で始まった「突哨山運営協議会」の約10年間の活動の経過と続き、最後に年表が入ります。

「突哨山と身近な自然を考える会」の会員には今春の「突哨山通信44号」で突哨山運営協議会が2017年から作成を進めてきた「突哨山の地域運動史」が今年中に完成する予定であることをお知らせしました。

これまで「突哨山の地域運動史」の検討と発行は突哨山運営協議会で行ってきました。この運動は「突哨山と身近な自然を考える会」の長年の活動が発展する形で「突哨山運営協議会」の活動に繋がったと思います。

しかし、この「突哨山の地域運動史」については「突哨山と身近な自然を考える会」でこれまで検討したことはありませんでした（「突哨山運営協議会」の委員の大半は「・・・考える会」のメンバーであることもあって）。

それで、5月12日あさひかわ新聞社に「・・・考える会」の核になる人が集まって以下のことを検討、確認しました。

1. 運動に当初から関わった人の原稿を増やす（女性の原稿が少ない）。
2. 出版主体は「突哨山運営協議会」と「突哨山と身近な自然を考える会」の共著とする。
3. 出版費用は両者で出すが、大半は突哨山運営協議会の予算から出す。
4. 以上を5月24日の「突哨山運営協議会」の総会に提案確認してもらう。
5. 不足の原稿がほぼ集まった段階で「突哨山と身近な自然を考える会」と「突哨山運営協議会」の両者のメンバーで「突哨山の地域運動史」出版委員会（仮称）を作って推進する。

突哨山と身近な自然を考える会 代表 出羽 寛